

一般社団法人熊本市医師会

令和4年度 事業報告

I 法人の概要

1. 設立年月日

昭和22年11月13日

平成25年4月1日（一般社団法人へ移行）

2. 定款に定める目的

本社団法人は、医道の高揚、医学及び医術の発達並びに公衆衛生の向上を図り、もって社会福祉を増進することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- ①医道の高揚に関する事項
- ②医学教育の向上に関する事項
- ③医師の生涯研修に関する事項
- ④医学、医療の国際交流に関する事項
- ⑤公衆衛生の指導啓発に関する事項
- ⑥地域医療の推進発展に関する事項
- ⑦地域保健の向上に関する事項
- ⑧保険医療の充実に関する事項
- ⑨医療施設の整備に関する事項
- ⑩会員の相互扶助に関する事項
- ⑪医業経営の安定、会員の福祉向上による市県民の健康及び福祉の増進に関する事項
- ⑫医師会相互の連絡調整に関する事項
- ⑬看護師、准看護師その他の医療従事者の養成及び生涯教育に関する事項
- ⑭熊本市医師会看護専門学校の運営に関する事項
- ⑮熊本市医師会熊本地域医療センター（医師会病院、検査センター、ヘルスケアセンター、在宅ケアセンター）の運営に関する事項
- ⑯その他本会の目的を達成するために必要な事項

4. 所管官庁に関する事項

熊本県健康福祉部医療政策課

5. 会員の状況

区分	当期末	前期末比増減
A会員（開業医師）	583名	-7名
B会員（勤務医師）	855名	+31名
C会員	49名	+2名
合計	1,487名	+26名

6. 主たる事務所

熊本県熊本市中央区本荘3丁目3番3号

7. 役員に関する事項

令和5年3月31日現在

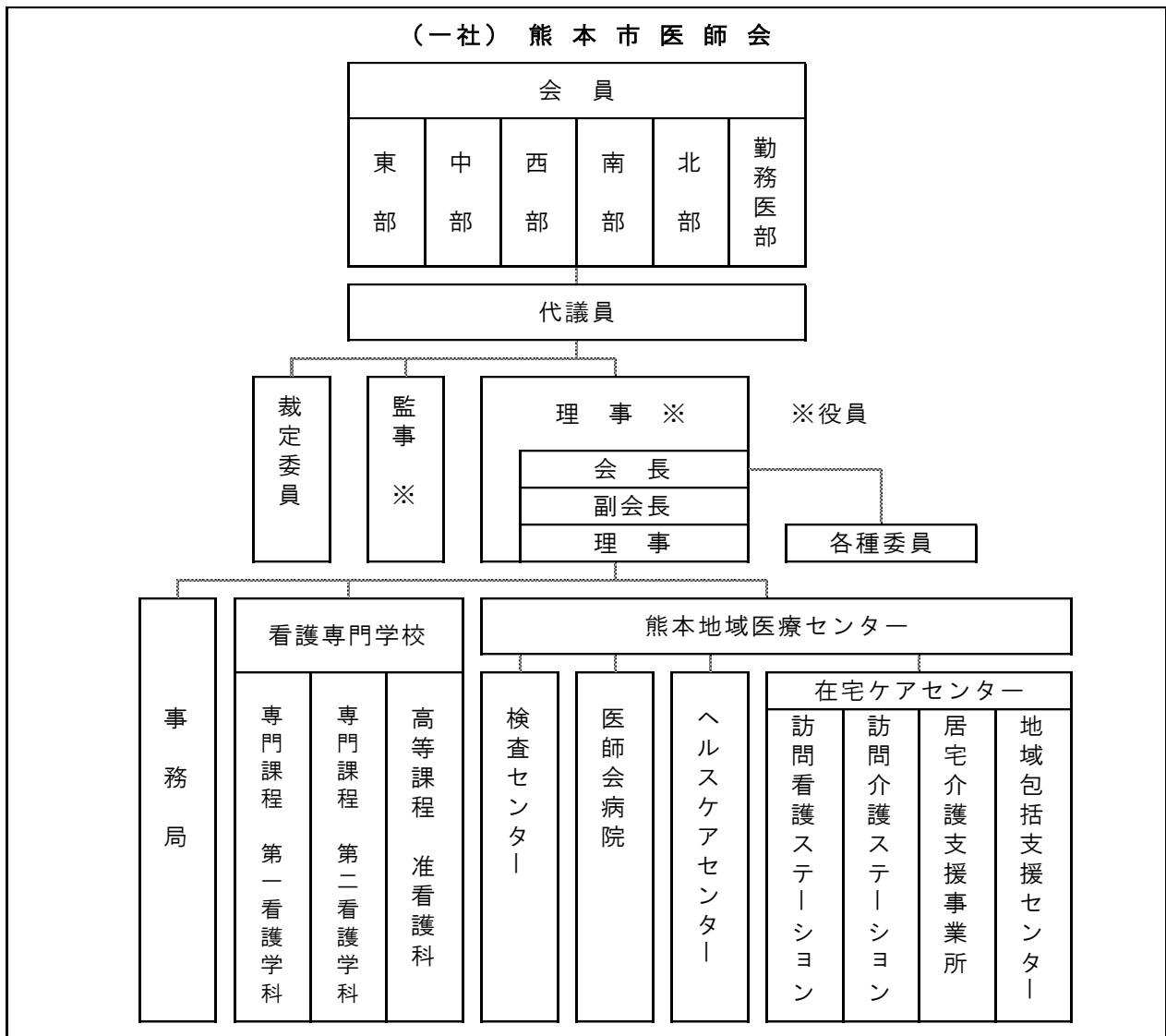
役 職	氏 名	主たる担当職務
会 長	園田 寛	
副会長	濱田 泰之	総務(学術、勤務医部)、看護専門学校長、ヘルスケアセンター全般
副会長	田中 英一	総務(医師会病院建設、地域包括ケアシステム、在宅医療)、在宅ケアセンター全般、検査センター全般
副会長	前田 篤志	総務、医師会病院全般
理 事	緒方 武幸	会計
理 事	宮本 大典	庶務
理 事	井 重博	会員福祉
理 事	家村昭日朗	保険、准看護科
理 事	田嶋 哲	広報、看護専門学校会計、第2看護学科
理 事	魚返 英寛	看護専門学校庶務、第1看護学科
理 事	野津原 昭	在宅医療、検査センター会計
理 事	高群 博之	勤務医部、ヘルスケアセンター会計
理 事	柏木 孝史	検査センター庶務、学校検診
理 事	杉野 茂人	医師会病院建設
理 事	冬田 修平	介護保険、在宅ケアセンター庶務
理 事	清原 英雄	社会福祉
理 事	緒方 一朗	地域医療、ヘルスケアセンター庶務
理 事	高野 正太	国際交流、医師会病院庶務
理 事	池上あずさ	学術
理 事	玉野井優水	新型コロナ対策
理 事	土井 賢	学校保健
理 事	鶴田 克家	医療情報、医師会病院会計
理 事	片山 貴文	在宅ケアセンター会計
理 事	米満弘一郎	救急・災害医療
監 事	松下 和孝	
監 事	倉富 明彦	
監 事	牧野 良造	

8. 職員に関する事項

令和5年3月31日現在

部署	正規職員		嘱託職員		臨時・パート・非常勤		総計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	合計
法人事務局	6	7	2		3	8	11	15	26
看護専門学校	1	29	1	1		4	2	34	36
検査センター	17	30	4	2	4	31	25	63	88
病院	87	271	6	3	12	41	105	315	420
ヘルスケアセンター	11	19	6	1	4	27	21	47	68
在宅ケアセンター	2	7	1	1		21	3	29	32
合計	124	363	20	8	23	132	167	503	670
	487		28		155		670		

9. 組織図



10. 施設の設置状況

施設の名称	所在地
熊本市医師会事務局	熊本市中央区本荘3丁目3番3号
看護専門学校	熊本市中央区本荘3丁目3番3号
検査センター	熊本市中央区本荘5丁目15番12号
医師会病院	熊本市中央区本荘5丁目16番10号
ヘルスケアセンター	熊本市中央区本荘5丁目15番12号
在宅ケアセンター 訪問看護ステーション 訪問介護ステーション 居宅介護支援事業所 地域包括支援センター	熊本市中央区本荘5丁目16番10号 熊本市中央区本荘4丁目1番3号

11. 許認可に関する事項

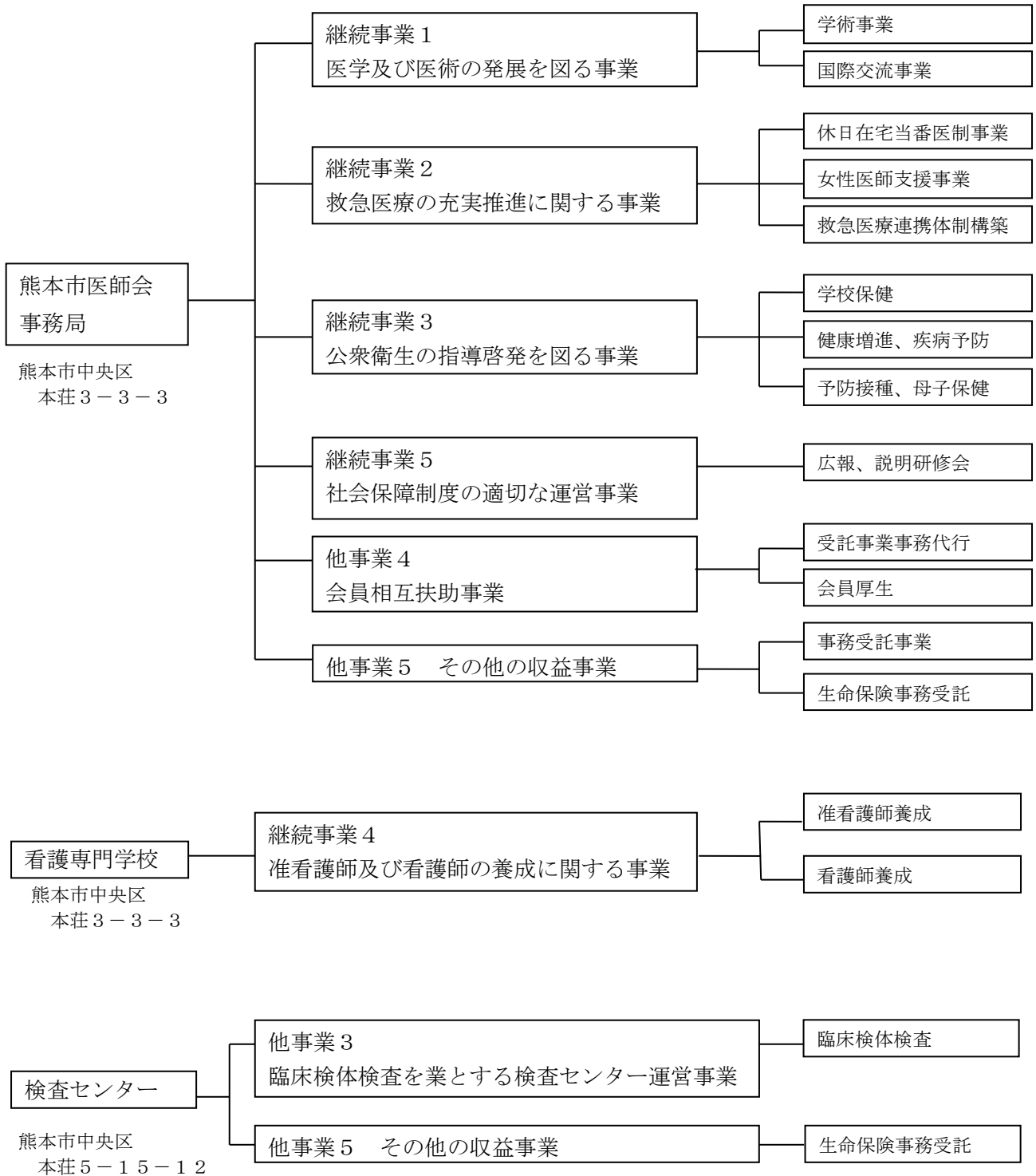
なし

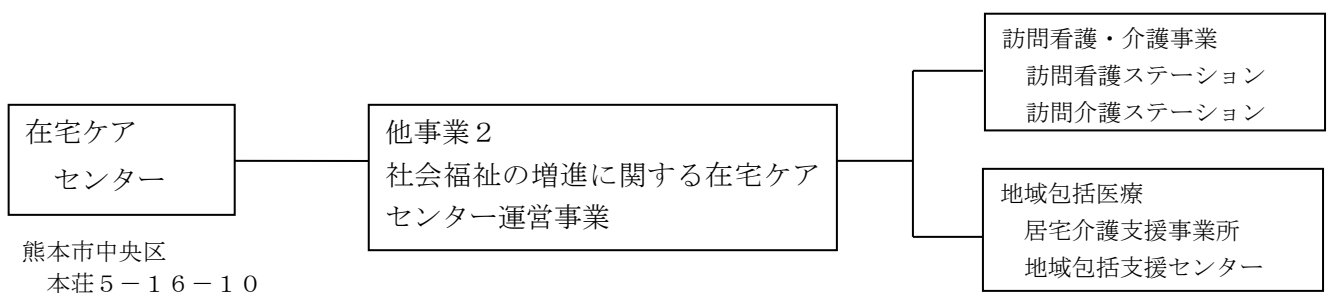
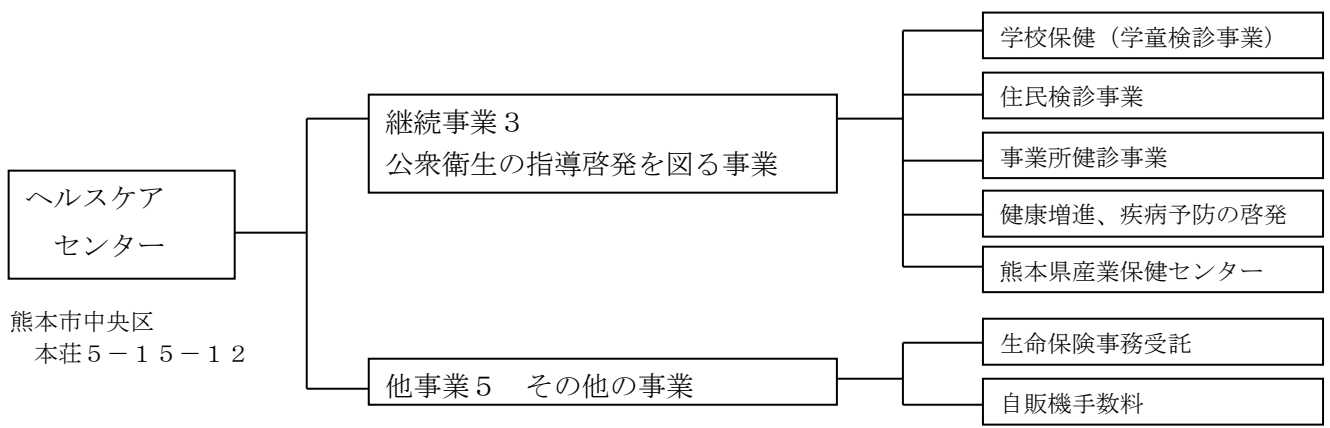
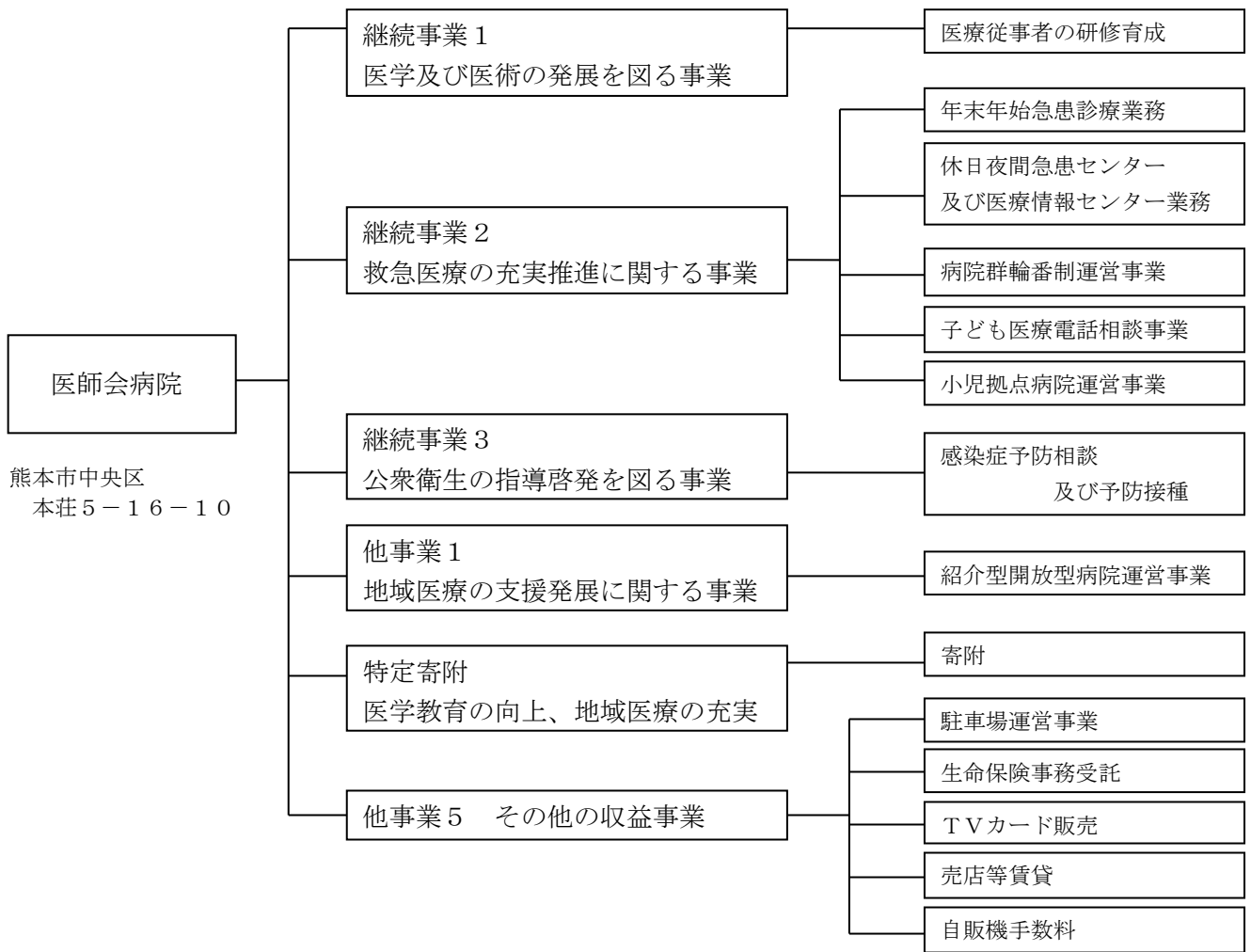
II 事業の状況

1. 事業の実施状況

本社団法人は、定款第3条の目的を達成するために努力し、定款第4条に掲げる事業を実施している。

(1) 事業・組織体系図





(2) 事業の概要

[継続事業1] 医学及び医術の発展を図る事業

日進月歩の医療において学術の振興を図り安全で質の高い医療を提供していくためには、生涯教育の推進は欠かすことのできないものであり、これを達成するために学術委員会、生涯教育委員会を設置して時宜を得た学術講演会や勉強会等を企画・開催するとともに、関係機関と協力連携のうえに各種講演会・研修会を共催している。また、熊本地域医療センターは地域医療支援病院の指定を受けているが、開設当初より医療従事者生涯教育の実習研修する場として開放し、医療従事者の指導育成に努めている。

1) 学術事業

学術委員会の開催	令和5年3月28日(火)
生涯教育委員会の開催	令和4年9月(書面開催)
日医生涯教育講座の打合せ	令和4年10月12日(水)
講演会、勉強会の開催	
・学術講演会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止
・リフレッシュコース	新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止
・熊本地域医療センター勉強会	10回開催 出席者287名(内Web受講者198名)
・共催後援の講演会	60回開催。そのうち当法人会館で1回を開催。
・講演会、研修会等会場の提供	次のとおり講演会、研修会等会場の利用に供した。
相 手	熊本大学医学部8回、専門医会17回、医専連5回、医師会員18回 行政他1回
提供施設	講堂25回、研修室47回
提供日	平日77回、土曜日12回、日曜日3回

2) 国際交流事業(米国サンアントニオ市ベア郡医師会との交流)

- ・新型コロナウイルス感染拡大のため中断。

3) 医療従事者への研修育成事業

令和4年度は、次のとおり実施した。

ア 医療従事者への研修

場所 熊本市医師会熊本地域医療センター(医師会病院)

医学生・看護学生等の実習(計349名)

医学部学生22名(呼吸器内科、消化器内科)、薬学部学生2名、看護学生303名、
診療放射線技術専攻学生10名、理学療法士専攻学生1名、言語聴覚士専攻学生1名、
臨床工学技士専攻学生4名、その他6名

医療現場の見学、一般病棟・緩和ケア病棟の見学等

イ 指導者としての自己研鑽

学会名	発表演題
第 122 回 日本外科学会定期学術集会	虫垂癌の術前診断および臨床病理学の検討
第 122 回 日本外科学会定期学術集会	大腸癌手術患者における縫合不全予測における Clinical Frailty Scale の有効性
第 122 回 日本外科学会定期学術集会	消化管悪性腫瘍根治切除後の短期予後予測因子としての L3-PMI に基づくサルコペニア判定の有用性
第 119 回 日本消化器病学会九州支部例会 第 113 回 日本消化器内視鏡学会九州支部例会	若年男性に発症した自己免疫性肝炎
第 53 回 日本膵臓学会大会 第 26 回 国際膵臓学会	Preoperative risk factors for postoperative pancreatic fistula in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma with pancreatic ductal adenocarcinoma
第 35 回 日本小児救急医学会学術集会	川崎病治療で投与したアスピリンが誘発因子となった 小麦アナフィラキシーの一例
第 53 回 日本膵臓学会大会 第 26 回 国際膵臓学会	10 年の単一施設での経験に基づく進行膵臓癌患者に 対する化学療法の有効性
第 77 回 日本消化器外科学会総会	胆道癌症例における Foundation One を用いた 遺伝子検査結果報告 ～生検組織例を 1 例含む 5 例の解析結果～
第 58 回 日本胆道学会学術集会	胆道癌症例における Foundantion One を用いた 遺伝子検査解析 5 例の報告
第 60 回 日本糖尿病学会九州地方会	重症下痢で脱水から短期間で腎前性急性腎障害 となったコントロール不良 2 型糖尿病患者の一例
第 30 回 日本消化器関連学会 (JDDW 2022)	胆道癌に対する抗癌剤治療における好中球リンパ球比 (NLR) の臨床的意義
第 120 回 日本消化器病学会九州支部例会 第 114 回 日本消化器内視鏡学会九州支部例会	化学療法のみで 5 年生存を達成した腹膜播種を伴う進行膵臓 の 1 例
第 35 回 日本内視鏡外科学会総会	腹腔鏡下傍ストマヘルニア根治術 (Modified Keyhole 法) を施 行した 2 例の報告
第 35 回 日本内視鏡外科学会総会	絞扼性腸閉塞に対する腹腔鏡下手術の短期成績
第 35 回 日本内視鏡外科学会総会	腹腔鏡下胆嚢摘出術においてきわめて稀な副肝管を認めた 1 例
第 340 回 日本内科学会九州地方会	呼吸不全を合併した癌性中枢気道狭窄 (CAO) 患者に対する 経気管支的マイクロウェーブ焼灼術 (TMA) の有用性

第 63 回日本肺癌学会九州支部学術集会 第 46 回 日本呼吸器内視鏡学会九州支部総 会	手術を受けなかった 80 歳以上高齢 I 期非小細胞肺癌患者の 予後
第 95 回 日本胃癌学会総会	ESD 後 SM 浸潤を認め、追加切除で判明した多発胃底腺型胃 癌の一例

〔継続事業 2〕 救急医療の充実推進発展に関する事業

地域住民の生命と健康を守るため、急病者の医療の確保と重症救急患者の医療を確保することを目的に、外傷や疾病の緊急の診断と治療を必要とする患者に対して適切な診療を提供する拠点として熊本地域医療センターを開設し、初期救急医療体制の休日夜間急患センター業務と二次救急の病院群輪番制病院業務を行っている。

尚、休日夜間急患業務との併用で医療情報の電話相談も行い、更に小児救急医療体制の補強として、小児患者の症状に応じた適切な医療を提供する体制を採っている。また、地域の医師不足による救急医療や地域医療体制の崩壊を防止するため、特に女性医師の就業継続ができる環境整備に対する支援等を行っている。

1) 休日在宅当番医制事業及び年末年始急患診療業務

ア 休日在宅当番医制事業 727施設、受診者31,818名

イ 年末年始急患診療業務

在宅医実施医療機関 (令和4年12月30日午前8時～5年1月4日午前8時まで)
56施設 受診者4,978名(二次病院搬送8名)

熊本地域医療センター(令和4年12月30日午前0時～5年1月4日午前8時まで)
911名

2) 休日夜間急患センター事業及び医療情報センター業務

実施施設：熊本地域医療センター

(小児科)

平日午後6時～翌日午前8時、休日午前8時～翌日午前8時

(内科、外科)

平日午後6時～午後11時、 休日午前8時～午後11時

受診者：13,273名

医療情報センター取扱い件数5,327件

(市民5,297、医療機関28、救急隊2、その他0)

3) 病院群輪番制運営事業

実施施設：熊本地域医療センター

受診者：1,877名(熊本市1,474、市外358、県外45)

三次病院への転送58名

4) 子ども医療電話相談事業

実施施設：熊本地域医療センター、毎日 午後7時～午後11時

相談料：無料

相談件数：13,108件

5) 小児拠点病院運営事業

熊本地域医療センターは、小児救急医療の第二次救急医療施設の拠点病院として、休日夜間救急センター、在宅当番医制等の初期救急医療施設及び小児救急患者の搬送機関との円滑な連携体制のもとに、休日及び夜間における入院治療を必要とする小児の重症救急患者の医療を提供している。

6) 女性医師支援事業

女性医師が働きやすい環境の整備を以て医師不足の防止を図り医療の崩壊を回避することを目的とし、医師会館内に一時預かり保育所「メディッククラブ」を設置している。また、熊本県委託の熊本県女性医師キャリア支援センター事業の一環として、講演会等参加時の一時保育事業を行っている。(ひとり親家庭や育児、介護等において特段の理由がある男性医師の利用も含む)

・保育所の利用者

女性医師延べ320名、男性医師延べ5名、児童延べ387名

・熊本県女性医師キャリア支援センターの業務及び利用者

県内の女性医師(子育て中の男性医師含む)に対し、講演会及び学会等参加時の一時保育を行った。また、保育・育児等に関する相談等に対応した。

ア 無料託児利用状況

利用日数 44日、女性医師 延べ43名、男性医師延べ5名、児童 延べ64名

イ 広報

主催者へ講演会等開催時の無料託児所について案内し、案内状への無料託児掲載依頼を行った。

女性医師支援事業案内のチラシを作成し、熊本県内医療機関及び熊本市医師会員に案内した。

ウ 相談対応

来所相談 男性 0名

女性 2名(勤務医2名)

電話相談 男性 18名(勤務医15名、その他3名)

女性 51名(開業医1名、勤務医47名、その他3名)

[継続事業3] 公衆衛生の指導啓発を図る事業

我が国では、令和22年(2040年)頃に高齢者人口がピークを迎え、医療・介護の複合的ニーズを有する高齢者数が高止まりする一方、生産年齢人口は減少に転じており令和7年(2025年)以降さらに減少は加速化すると予想されている。ヘルスケアセンターでは、地域ごとの人口構造やこれに伴う健診需要の変化を見据えながら、地域ごとに適切に対応できるような形で改革を進めていくことが要件と考える。必要なサービスの創出に取り組みながら、限りある人材で健(検)診提供体制の最適化・効率化を図っていく。

1) 学校保健

ア 学校医の推薦

熊本市教育委員会へ13名(内科7、眼科2、耳鼻科4)を推薦

熊本県医師会へ5名(内科4、眼科1、耳鼻科0)を推薦

イ 学童検診の実施

・学校心臓検診

対象 市立小学校・市私立中学校・公私立高等学校・支援学校のうち、小学校1年・4

年、中・高校1年生の児童・生徒。また学校医・養護教諭から検査要請のあったそれ以外の学年の児童・生徒。

第1次検診 令和4年4月11日～令和4年6月10日

第2次検診 令和4年4月16日～令和4年7月30日

実績 155校、実施数 24,229名、精検受診者数 865名、追跡 87名

・学校腎臓検診（検尿）

対象 市私立幼稚園、市立小・中学校、市立高校、市立専門学校、保育園の園児児童

第1次検診 令和4年4月13日～令和4年6月2日

第2次検診 令和4年4月27日～令和4年6月16日

第3次検診 令和4年5月24日～令和4年7月14日（対象：熊本市立校のみ）

実績 156校、第1次 62,522名、第2次 2,955名、第3次 414名

・学童結核検診

入学（進級）時結核問診票と学校医の内科健診の所見に基づき、X線デジタル撮影と喀痰検査をヘルスケアセンターで実施。

実績 胸部X線 小学校3名、中学校3名の計6名

・肥満児等調査および小児生活習慣病予防検診

市内小学4年生の肥満度20%以上の児童を対象として、希望者に予防検診を実施。

また、検診（有所見）者への事後指導として、保護者や養護教諭を対象に医師、栄養教諭、理学療法士による説明会を実施している。

実態調査 小・中学校合計調査数 60,047名 うち20%以上 6,054名

小学校 40,617名 20%以上 4,027名

中学校 19,430名 20%以上 2,017名

小児生活習慣病予防検診受診者数 348名 うち有所見者数 156名

要指導 77名、要精密検査・加療 79名、異常なし 187名、判定不能 5名

小児生活習慣病予防検診説明会：令和5年3月18日開催（4年ぶりの開催）

保護者 44名、子（受診者） 30名、兄弟等 3名、学校関係 4名 計 81名参加

・脊柱側弯症検診

児童・生徒の内科健診時に、学校医が小学校5年生と中学校1年生に対して重点的に脊柱の検診を行うとともに、ヘルスケアセンター設置の整形外科医からなる検診班より委員が選定された学校へ赴き、健診時に学校医とともに視診・触診を行う。

抽出された要精密検査の児童・生徒は、専門医療機関（登録指定機関）で精密検査を受診する検診体制を採っている。

対象者 小学校5年生 6,841名、中学校1年生 6,483名 計 13,324名

要精検者 小学校5年生 184名、中学校1年生 122名 計 306名

2次検診（精密検査）受診者数 225名

精密検査結果：225名（側弯症 43名、側弯症疑い 112名、その他 1名、異常なし 69名）

小学校5年生 135名（側弯症 18名、側弯症の疑い 69名、その他 1名、異常なし 47名）

中学校1年生 90名（側弯症 25名、側弯症の疑い 43名、その他 0名、異常なし 22名）

脊柱側弯症二次検診登録申請講習会 令和5年2月28日開催

申請 124機関/参加 36名（新型コロナの影響で2年の延期・5年ぶりの開催）

・就学時健康診断

実施期間 令和4年10月1日～令和5年3月31日

実施者数 内科 6,322名、眼科 6,309名

ウ 学校教職員健康診断の実施

実施期間 令和4年7月25日～令和4年9月15日

熊本市の小学校77校(92校中)、中学校41校(43校中)の教職員1,991名を実施。

2) 住民検診

検診の意義である早期発見・早期治療を達成するために各種検診ごとに専門医からなる読影班委員会を置き、二次検診以降のフォローに注意を注ぎ、個別検診の実施医療機関は登録制による指定を行うとともに各種検診の要精密検診者の受診勧奨に努めている。

ア 特定健診・特定保健指導：個別（施設）健診

特定健診のソフトを開発して実施医療機関に提供し、健診データの一元管理を行い健診事業の円滑な実施を図っている。

健診実績 35,648件

特定保健指導：初回実施238件、評価実施246件

イ 胃がん検診：検診車による巡回検診および施設内のセット検診

受診者1,240名、要精検者103名、精検受診者87名(84.5%)、がん2名(発見率0.16%)

胃がん検診内視鏡検査：医療機関による個別検診

受診者4,739名、要精検者355名、精検受診者332名(93.5%)、がん14名(発見率0.29%)

ウ 子宮頸がん検診：医療機関による個別検診

受診者10,626名、要精検者384名、精検受診者323名(84.1%)、がん4名(発見率0.03%)

がん疑い1名

エ 乳がん検診：医療機関による個別検診

受診者6,995名、要精検者608名、精検受診者542名(89.1%)、がん25名(発見率0.35%)

がん疑22名

オ 肺がん検診：検診車による巡回検診および施設内のセット検診

受診者6,889名、要精検者115名、精検受診者113名(98.2%)、がん4名(発見率0.06%)

がん疑い4名

肺がん個別検診：登録医療機関（会員）による個別検診（令和5年2月開始）

受診者646名、要精検者43名、精検受診者12名(27.9%)

カ 大腸がん検診

検診車による巡回検診（市内24校区）と個別検診の併用で実施

冬季期間（10/1～3/15）、郵送検診実施

受診者9,817名、要精検者916名、精検受診者591名(64.5%)、がん13名(発見率0.13%)

早期がん9名、進行がん4名)

3) 事業所健診

労働者健康の保持増進を目的に、労働安全衛生法に基づく健康診断を実施して受診者には保健指導を行うなど労働衛生の向上に努めている。

通院2日ドック	27事業所	49名
日帰りドック	640事業所	2,470名
特定健診	7事業所	25名
一般健康診断（定期、採用時）	1,936事業所	9,325名
成人病予防検診（協会けんぽ、一般）	1,113事業所	5,090名
精密検診（再検）		0名
出張健診（定期・協会けんぽ等）	122事業所	18,422名

検診車による胸部検診	141 事業所	13, 878 名
〃 胃部検診	11 事業所	718 名
検体検査・生理機能等		8, 664 名

4) 健康増進、疾病予防の啓発

- ・熊本地域医療センター市民公開講座

熊本地域医療センターは、平成23年11月7日付で熊本県指定がん診療連携拠点病院に指定された。「がん」という生死にかかわる病を前にして患者や家族そして医師がどうあるべきか、がんの告知や治療等の選択など、がん診療の拠点病院としての責務により多くの人と「がん」という病を考えていくために、市民を対象とした講座を開催してがんの診療を中心とした医学及び医療について市民に広く啓蒙している。

令和4年度は前年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

5) 感染症予防の相談及び予防接種の実施

予防接種要注意者等が安心して予防接種が受けられる体制を整備して予防接種の向上と予防接種による健康被害発生の防止に万全を期すため、熊本県から委託を受けて当法人は地域医療センターで熊本県予防接種センターを開設している。県民からの予防接種の副反応や感染症予防に関する相談、あるいはハイリスク者（予防接種要注意者）、海外渡航者への予防接種等を実施している。また医療機関からの相談等にも応じており、予防接種に対する県民の不安感を取り除いている。

令和4年度接種者

ハイリスク者 113人、海外渡航者113人、その他10人、 計236人

6) 熊本県熊本地域産業保健センターの設置

熊本労働基準監督署管内の労働者数50人未満の小規模事業場の事業主や労働者を対象として、労働安全衛生法で定められた保健指導等の産業保健サービスを無料で提供している。

熊本産業保健総合支援センターとの連携のもと、引き続き上記の4項目を活動の柱に事業を展開したが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い機構本部より事業の進め方について指導があり、訪問活動自粛要請期間や事業場側の依頼控え等の影響で一年を通して訪問指導件数は減少した。一方、非対面で実施する書類上での医師からの意見聴取(就業区分判定)は前年度比104.0%の実施となった。

対象地域：熊本市、上益城郡、下益城郡、宇土地区の4地域

実績：1. 個別訪問産業保健師指導 12 事業場

(熊本市 8、上益城郡 3、下益城郡 0、宇土地区 1)

2. 健康診断結果について医師からの意見聴取 296 事業場、相談者 2,214 名

3. 長時間労働者、高ストレス者に対する面接指導 15 事業場、相談者 20 名

7) 予防接種、母子保健等の充実向上

市民の健康の保持と増進を目的とする予防接種事業や母子保健事業を達成するため、熊本市と連携協力して地域住民の利便性等考慮した事業体制の構築を図り事業の円滑な実施と普及に努めている。

予防接種 272,462 名、乳児健診 11,328 名、妊婦健診 59,179 名、産婦健診 4,378 名、

三歳児視聴覚精密健診：眼科 1,024 名、耳鼻科 303 名、

肝炎ウイルス検査 1,444 名、風しん抗体検査 268 名

[継続事業4] 准看護師及び看護師の養成に関する事業

急速な高齢化の進展及び保健医療を取り巻く環境等の変化に伴い看護師等の確保の重要性が著しく増大している。看護師の資質向上、医療及び公衆衛生の普及向上を図ることが求められる中において、看護師養成における人材育成を通して社会の期待に応え更に一層の発展をしていく為には、看護実践能力の向上と看護職としての社会的責任並びに国民の要望に対応した看護の質の向上が不可欠である。このことを念頭に生命の尊厳と高い倫理観に基づいた豊かな人間性と、必要な基礎知識、技術を教授し、保健医療福祉活動に貢献しうる質の高い看護実践者の育成につとめている。

ア 看護師養成事業

－医療専門課程－

第1看護学科 修業年限3年、1学年定員70名（総定員210名）

- ・第12回生入学式 令和4年 4月 5日
新入生74名（うち男性4名）
〔受験者104名(9)、合格者78名(4)、競争率1.3〕
- ・1年生 歓迎会 令和4年 4月 6日
- ・第11回宣誓式 令和5年 1月11日(2年生72名)
- ・入学試験

高校推薦・社会人・指定校推薦(第13回生)入学試験 令和4年10月 9日

一般(第13回生)入学試験(前期) 令和4年11月20日

一般(第13回生)入学試験(後期) 令和5年 2月26日

- ・第10回生卒業式(卒業証書授与70名) 令和5年 3月 3日

第2看護学科 修業年限3年、1学年定員40名（総定員120名）

- ・第48回生入学式 令和4年 4月 5日
新入生40名（うち男性11名）
(受験者42名、合格者40名、競争率1.1)
- ・入学試験

推薦・指定校推薦・特別推薦(第49回生)入学試験 令和4年11月 6日

一般(第49回生)入学試験 令和4年12月 4日

第2回一般(49回生)入学試験 令和5年 1月29日

- ・第46回生卒業式(卒業証書授与39名) 令和5年 3月 3日

- ・第112回看護師国家試験(福岡市) 令和5年 2月12日

第1看護学科 第10回生70名受験 全員合格 合格率 100%(全国90.8%)

第2看護学科 第46回生39名受験 38名合格
合格率 97.4%(全国90.8%)

イ 准看護師養成事業

－医療高等課程－

准看護科 修業年限2年、1学年定員80名（総定員160名）

- ・第70回生入学式 令和4年 4月 5日
新入生69名（うち男性20名）（受験者82名、合格者82名）
- ・入学試験

推薦・社会人(第71回生)入学試験 令和4年10月23日

一般(第71回生)入学試験 令和4年11月27日

第2回一般(第71回生)入学試験 令和5年 1月22日

第3回一般(第71回生)入学試験 令和5年 2月11日 (応募者なしの為中止)

- 第4回一般(第71回生)入学試験 令和5年 3月 4日 (応募者なしの為中止)
- 第5回一般(第70回生)入学試験 令和5年 3月 18日
- ・戴帽式(第70回生) 令和4年10月19日(1年生64名)
- ・2年生卒業前記念講演会
期 日 令和5年2月21日
テーマ 「看護職として歩む ～やさしさと笑顔を忘れずに～」
- ・第69回生卒業式(卒業証書授与60名) 令和5年 3月 3日
- ・熊本県准看護師試験 令和5年 2月 14日
合格発表 令和5年 3月 10日
准看護科 第69回生60名受験 57名合格 合格率95%

ウ その他3学科合同行事

- ・学校説明会(高校の先生方への説明会) 令和4年 7月 29日

[継続事業5] 社会保障制度の適切な運営事業

国民の健康で文化的な生活を目的とする社会保障制度は、行政のみならずその実践に深く係わる者の周知や理解なくしては成り立たない。制度のなかで大きなウエイトを占めるのが医療関連制度であり、行政と連携協力のうえに社会保障制度の円滑かつ適正な運営を図ることを目的に制度の説明会等を実施している。

- ・行政通知等の広報
熊本市より 「病児・病後児保育事業「診療情報提供書」適用の対象施設の周知依頼」他5件通知
九州厚生局より「酸素の購入価格に関する届出について」通知
- ・各種説明会等の実施
ア 予防接種説明会 熊本市と共催 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催無し
イ 熊本市新型コロナウイルス感染症診療体制及びワクチン接種に係る説明会(ハイブリッド)
令和4年9月22日

[特定寄附] 医学教育の向上及び地域医療の充実に資するための寄附

医学教育の向上及び地域医療の充実に資するために、熊本大学医学部への寄附を実施。

[他事業1] 地域医療の支援、発展に関する紹介型開放型病院の運営事業

地域の医療機関からの重症患者を受入れ、必要な医療を提供した後、元の医療機関に戻すことによる医療機関相互の機能分担と連携を可能なものとし、地域医療全体の質を向上させるために、地域医療の中核となる熊本地域医療センターを、地域のかかりつけの医師、医療機関(特に診療所)の後方支援病院として開設した。熊本地域医療センターは地域の医師に開放された病院であり、地域の診療所で治療が難しい患者に対し、診療所からの紹介によって治療を行うことを主業務とする病院で、地域の医師が患者に良質の医療を行うための基盤となっており、当法人が地域医療のネットワークを形成するために開設している臨床検査センターやヘルスケアセンター(健診施設)、在宅ケアセンター(訪問看護・介護)とともにあって地域医療の質を向上させている。

入院患者数 5, 136名、入院延日数53, 558日、在院日数月平均9.0日

紹介率:月平均93.9%

手術数 873件 うち168件が緊急手術、会員執刀71件

共同指導件数 157件、共同指導回数 260回

外来患者数 46, 687名(平日日勤帯外来患者数33, 414名、休日夜間帯外来患者数13, 273名)

各種検査 内視鏡検査5, 513件(治療内視鏡996件)、MRI検査4, 451件、CT検査8, 698件、超音波5, 869件、心カテ49件

[他事業2] 社会福祉の増進に関する在宅ケアセンター運営事業

高齢化社会の到来で、在宅医療の充実とともに保健福祉の向上は避けては通れないものであり、地域における包括医療提供体制を構築して社会福祉の増進、特に高齢者の福祉の増進を図ることを目的として在宅ケアセンターを開設し、次の事業を行っている。

1) 訪問看護ステーション

病気や障害をもって在宅医療する方に対して、専門的知識、技術、判断をもって病気や障害の改善に努め、より良い状態で安全に充実した生活が送れるようあらゆる在宅療養支援することを目的としている。

医療機関からの指示を受け533名に訪問看護を行った。

医療保険利用者112名、介護保険利用者421名

医療保険による訪問回数988回、介護保険での訪問回数1,765回

計2,753回

2) 訪問介護ステーション

利用者の自立支援として身体介護サービス、家事援助サービス、生活・身上・介護に関する相談助言等を行っている。

936名に対し、6,164回の訪問介護を行った。

介護サービス利用者523名、介護予防サービス利用者397名、その他利用者16名

訪問回数内訳：総合事業1,924回、生活援助3,376回、身体介護372回、

身体・生活376回、その他116回

3) 居宅介護支援事業所

介護保険に関する各種申請代行、ケアプラン作成、サービス事業所の紹介・調整やその他介護保険に関する相談を行っている。

令和4年度 要介護1以上のケアプラン作成対象者 延べ1,196名

介護予防給付対象者である要支援者 延べ 44名

4) 地域包括支援センター

地域での高齢者の包括ケアを機能させるため、保健師、ケアマネージャー、社会福祉士を配置し、地域での各種サービスや地域ネットワークの構築などを柱に個別サービスのコーディネートを行っている。

令和4年度 ケアプラン作成者延べ4,352名、相談件数3,309件

自立支援型地域ケア会議 14事例検討 (オンライン開催)

[他事業3] 臨床検体検査運営事業

1) 検査センター

臨床検体検査は、診断・治療の用に供する診療の根幹をなすものであり、精度の高い正確な検査データを迅速に供給することが求められ、また、迅速検査は、患者中心の医療や患者サービスの向上が言われる今日、患者にも大きな恩恵がある。これら地域の医師の負託に応え、地域の医療の水準を高めて地域医療の質を向上させることを目的として検査センターを開設し、地域の医療機関からの依頼による臨床検体検査を実施している。

取扱検体数 年間 1,635,658検体 検査項目数 年間 8,085,695項目

2) PCRセンター

市からの委託を受け、新型コロナウイルス感染症検査施設として設置運用を行っている。

令和4年4月1日～令和5年3月31日

検査数5,962名、陽性数2,892名、陰性数3,070名

[他事業4] 会員相互扶助事業

1) 代行業務

地域住民の健康の保持と増進を目的とする公衆衛生事業等の事務処理を効率的、効果的に

行うため、熊本市と熊本市医師会で委託契約している予防接種及び健診について、実施登録医療機関から提出された報告書・予診票及び受診券すべてを取り纏めて、市への実施医療機関の請求や市からの実施医療機関への料金支払いの対応等を一括代行している。

2) 会員所属地区部への補助金、同好会への補助金等

ア 熊本市医師会は、東、中、西、南、北部の地区部と勤務医部の6部に区分し、会務の連絡を図るため、会員数に応じて補助金を助成している。

イ 熊本市医師会では、会員3名以上で結成される同好グループで規定を満たすものを趣味同好会として認可し、補助金を助成している。

剣道部、登ろう会、肥後狂句(杏風会)、ゴルフ会、ワイン同好会、古典音楽同好会

3) 熊本市受診案内センター

市からの委託事業として、発熱患者からの電話相談を受け、受診可能な診療・検査医療機関の案内を行う。

令和4年4月1日(金)～令和5年3月31日(金) 受電件数47,678件

4) 代診医師募集

諸事情により診療できなくなった会員医療機関から、代診医師募集の依頼を受け、事務局にて調整を行う。(依頼数3件、調整数3件)

[他事業5] その他の収益事業

1) 事務受託事業

本会外郭団体への一部業務支援

2) 生命保険事務受託事業

3) 駐車場運営事業

4) テレビカード販売手数料

5) 医師会病院の売店・レストランの賃借料

6) 自動販売機設置手数料

2. 重要な契約に関する事項

なし

3. 役員会等に関する事項

(1) 理事会

毎月原則第2、第4水曜日(5月は決算の関係で第3・第5水曜、3月は予算の関係で第1・第4水曜)に午後7時から熊本市医師会館会議室他で24回開催。

各理事が担当業務・事業状況を報告し、当法人への入会等重要な案件は担当理事の提案に基づき協議・決定している。尚、検討時間を要する内容のものについては、理事会の企画検討事項として採り上げ協議している。

(2) 代議員会

・第27回臨時代議員会

日 時 令和4年4月6日(水) 午後7時

場 所 熊本市医師会館 2階講堂

提出議案

第1号議案 令和4年度一般社団法人熊本市医師会会費免除申請に関し承認を求むるの件

第2号議案 令和5年度一般社団法人熊本市医師会会費の賦課及び徴収に関し承認を求むるの件

※以上提出議案は、審議の結果原案通り承認された。

選挙

①熊本市医師会会長 1名

- ②熊本市医師会副会長 3名
 - ③熊本市医師会理事 20名
 - ④熊本市医師会監事 3名
 - ⑤熊本市医師会裁定委員 7名
 - ⑥熊本県医師会代議員 8名
 - ⑦熊本県医師会予備代議員 10名
- ※上記のとおり役員候補者が選任された。

・第28回定例代議員会

日 時 令和4年6月17日(金) 午後7時
場 所 熊本市医師会館 2階講堂
報 告

- (1) 令和3年度一般社団法人熊本市医師会事業報告
- (2) 令和4年度一般社団法人熊本市医師会事業計画及び予算

提出議案

- 第1号議案 一般社団法人熊本市医師会令和3年度財務諸表に関し承認を求むるの件
- 第2号議案 一般社団法人熊本市医師会理事及び監事の選任に関する件
- 第3号議案 一般社団法人熊本市医師会会長及び副会長の選定に関する件
- 第4号議案 一般社団法人熊本市医師会裁定委員7名の選任に関する件
- 第5号議案 一般社団法人熊本市医師会顧問の推戴に関する件
- 第6号議案 一般社団法人熊本市医師会定款改正委員(9名)、予算委員(14名)、災害基金委員(8名)、建設委員(9名)の選出に関する件

※以上提出議案は、審議の結果原案通り承認された。

・第29回臨時代議員会

日 時 令和4年8月9日(火) 午後7時
場 所 熊本市医師会館 2階講堂

提出議案

- 第1号議案 土地取得に関し承認を求むるの件

※以上提出議案は、審議の結果原案通り承認された。

(3) 会員懇談会

日 時 令和4年9月3日(土) 午後5時30分
場 所 熊本市医師会館 2階講堂
報 告

- ①事業報告
- ②決算報告

(4) 会計監査

令和4年6月2日、3日の両日、令和3年度の会務及び会計について監事3名から監査を受けた。

4. 収支及び正味財産の状況推移

単位：百万円

事業年度	R 3 年 3 月 期	R 4 年 3 月 期	R 5 年 3 月 期
前期繰越収支差額	4, 4 7 2	4, 8 1 6	5, 3 9 8
当期収入合計	8, 3 0 9	9, 1 0 7	9, 0 1 5
当期支出合計	7, 9 6 5	8, 5 2 5	8, 0 9 9
当期収支差額	3 4 4	5 8 2	9 1 5
次期繰越収支差額	4, 8 1 6	5, 3 9 8	6, 3 1 4
資 産 合 計	1 3, 6 6 9	1 4, 4 7 7	1 4, 8 9 6
負 債 合 計	3, 7 0 5	3, 2 8 0	2, 8 3 8
正 味 財 産	9, 9 6 4	1 1, 1 9 6	1 2, 0 5 7

Ⅲ. 株式保有の概要

熊本シティエフエム株式 9 0 万円

熊本県医師信用組合 5 万円